

3-6-4 荒神社

鎮座地 江名子町大谷 4946 番地 白幣社 (旧社格 無格社)

一、祭神

火結神 (ほむすびの) (斎火武主比神)

火之夜芸速男神 (ひのやぎはやおの)

奥津日子神 (おきつひこの)

奥津日売神 (おきつひめの)

一、由緒

延元 3 年 (皇紀 1998・西暦 1338) 越前において新田義貞戦死の際、その勇将畑六郎左衛門時能が、兵と食糧を求めて飛驒に入り、この地で墾田開拓したが、このときの京都の上賀茂と御所内の荒神の御分霊を祀り、田畑の守護神としたことに始まると伝えられる。いまも寒中に「裸足参り」などの風習が残っている。

古昔は女人禁制で、婦女の社地を踏むのを忌み、また、境内樹木の枝葉を採ることさえ禁じたが、またこれを犯す者も無かった。

五穀・養蚕をはじめ、殖産興業に靈験があり、ために多くの信仰をあつめ、氏子組織とは別に、「荒神講社」をもち、飛驒一円にわたって熱心な信者がある。

俗に言う「荒神さまの甘酒祭り」で世に知られる。元禄検地による除地帳に、荒神社の社名のみ見える。昭和 21 年神社庁の創立とともに、これに所属し、岐阜県神社庁より白幣社の指定を受けた。

同 24 年国有境内地 911 坪の無償譲与を受けた。社地は市の保存林に指定され、「夫婦杉」はまた、市指定天然記念木となっている。

一、祭祀

例祭日は陰暦の閏年 11 月 8 日 (制定日 11 月 18 日)。その日五穀餅と醴酒を一般参詣者に供する。

祭日には里長の屋敷前で、その前夕祓いをして身を浄めた若者は、屋外積雪の中で醸した醴酒と、米・大豆・小豆・粟・稗を材料として搗いたいわゆる「五穀餅」、110 膳 (75 と 35 にして柏の葉に盛分け箸を添える。) を神前に供えて、豊凶を占った神事後、一般参拝者に供饌を頒布する。

一、建造物

本殿 (流造 1 坪)・拝殿 (平棟造 6 坪)・手水舎 (1 坪)・鳥居 (木、石各 1 個)。

一、境内地 42 坪。 境外地 山林 2 反 8 畝 2 歩。原野 1 畝 9 歩。

一、氏子 50 戸。上江名子の賀茂神社の氏子と同区内である。

『飛驒の神社』より